

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101819		
法人名	医療法人 慈成会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	徳島市津田西町1丁目9-5		
自己評価作成日	平成28年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年3月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人にとって大切なことや大事にしたいつながりを知って、支援に活かす取り組みをしている。利用や一人ひとりが持っている可能性を生かし自分らしく暮らしていけるように支援している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲には住宅地があり、近隣には海や山等の自然の広がる自然豊かな環境がある。また、清掃が行き届いており、清潔な環境となっている。全職員が介護福祉士資格を取得しており、事業所の理念のもとで利用者が地域の中で暮らし続けることができるよう支援している。また、日常的な外出支援に加え、特別な外出にも力を入れており、利用者が楽しく過ごすことができるよう努めている。近隣には、同一法人の運営する医療機関があり、密に連携が図ることで、本人や家族の安心感に繋がっている。事業所は家庭的な雰囲気があり、利用者と職員がともにゆったりと暮らしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で、その人らし生活が維持できるような環境づくりを目指し、「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」という理念を掲げ、事業所内に掲示し、確認を行いいつでも理念に立ち返れるようにしている。	事業所では、開設当時から理念を共用空間に掲示している。職員の立場や経験に関わらず、理念を理解して具体的なケアに繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出掛けたり、行きつけの理髪店を利用したりして近隣住民との交流を深めている。	事業所では、隣接の神社へお祭りや初詣へ出かけており、その際に地域の方と交流を行っている。また、家族や職員等の繋がりからボランティアの来訪があり、唄や音楽等を通じた交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への日常生活支援についての理解を得られるよう、運営推進会議等の場を設けて地域の人達に伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さんの要望を事前にお聞きして報告をしたり、月間の行事を写真で見えたり、テーマを決め報告をして事業所内での取り組みについて理解をしていただいている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。本人や家族、民生委員や地域包括支援センター職員、同一法人の職員の出席を得ている。事業所の取り組みについて報告し、意見を出してもらうなどして話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況票等の報告を窓口を持参し、直接担当者と話を行っている。	職員は、市担当窓口へ実績報告書を提出したり、介護認定の代行申請の際に窓口でコミュニケーションを図ったりしている。また、必要に応じて電話で連絡し、問題等の解決に向けてアドバイスをもらうなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の為の施錠は行っていません。外部侵入者予防として、入居者様の安全を守るための戸締りとして行っています。入居者さまの出入りは自由にできるように常に見守りを行うようにして対応しています。	法人や事業所内で身体拘束の内容や弊害に関する研修会や話し合いを行っている。玄関を施錠しているが、見守りや付き添いを重視することで、いつでも外へ出ることができるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症についての勉強会をおこなったり、ミーティング時に資料を回覧し、個々のスキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいます。ホーム内に掲示をしたり、研修に参加できるような体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、入居者や家族に納得していただき、不安や疑問なく入退居していただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者様や家族の方が職員に対して何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けている。 意見、要望等はミーティングを行い運営に反映させている。	日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの希望や思いを把握するようにしている。家族会を開催するなどの工夫も見受けられ、雰囲気づくりに留意している。また、家族の来訪時には、意見等を言いやすいよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時や随時、意見、疑問点、改善点を聴き、ミーティング時等に話し合い運営に反映させている。	管理者が中心となって、職員の意見やアイデアを聞くようにしている。また、管理者は職員の意見を取りまとめて代表者へ伝え、業務改善や勤務体制等の調整へと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう、職員の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内があれば申し送りノートに記載したり、事業所内に掲示し、希望者には受講できるように勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での交流や実践者研修の受け入れを行っている。また会議や研修、勉強会に参加し情報や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を取り除くためコミュニケーションを取りながら、可能な限り本人の希望を取り入れ、信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族との信頼関係が築けるよう心がけ、不安や要望等を話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が必要としていることとお聞きし、より良いサービスが提供できるように情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や力を発揮できるようにし、職員と共に家族に様に過ごし、お互い助け合い、協力しながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の暮らしをお伝えし、情報の共有に努めている。家族の思いを受け止め、共に支えあっていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様は地元の方が多いため、知人や、友人との交流が途切れないように気軽に行き来できるよう支援している。	利用者一人ひとりの馴染みの美容院への外出を支援している。また、家族や知人の来訪時には、居室や共有空間でゆっくりと会話を楽しむことができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共同で楽しめるレクリエーションを考えたり、職員が間に入り一緒に会話をするなどして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院により、やむを得ず退居になられた場合でも、定期的にお見舞いに伺ったりして本人家族様の相談をお聞きしたりして支援している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを受け止め、本人や家族の希望をお聞きし、職員間で情報の共有を行うよう努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて暮らし方の希望や思いを把握するように努めている。言葉で表現することが困難な方には、日頃の些細な行動や表情の変化、また家族の情報等をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から情報収集を行うと共に、ケアマネージャーからの情報をもとに把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が日々の状態の変化を見落とさないようにし、本人の残存能力を把握し最大限に発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、家族様の面会時には状況報告をする事により意見や要望を聞き、それを基に介護計画に組み入れご本人様がより良い暮らしが出来るように作成している。	年に2回、介護計画を見直している。事業所独自の計画様式を用い、モニタリングにおいてはチェック評価と文章評価を行うようにしている。利用者の心身状況の変化に応じて、介護計画を見直しており、臨機応変に対応することができるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化に気づき記録し、朝夕の申し送り、ミーティング時に職員間での情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人が、今何をして欲しいかを本人の立場に立って考え行動することで、個々の要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染み親しんできた地域との交流を行い、お世話になっている民生委員や地域の人達に支援していただき、安心して生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。	事業所では、協力医療機関の医師を主治医としている。専門医や総合病院の受診時には、家族の協力を得て支援しており、情報の共有化に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を取ることで、毎週1回は協力医療機関の看護職員が来て入居者様の健康確認を行っている。体調不良者に対してはすぐに病院と連絡を取り対応している。緊急時の協力体制は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、本人、家族と相談しながら、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成し家族様への説明同意をいただき、協力医療機関との連携を取りながら取り組んでいる。	事業所では、終末期の指針に加え、“急変時の対応についての入居者(家族)の事前意思確認書”や“重度化時対応希望書”を用い、必要に応じて家族に意思確認を行っている。事業所では看取りの経験はないが、医師との連携や体制を整備し、利用者や家族が安心して終末期を迎えることができるようチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し常に掲示して、緊急時に対応している。外部の訓練にも参加し実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行い実際に入居者様に参加していただいて訓練を行っている。病院との合同訓練も行い、安全な避難誘導が出来るように備えている。	年2回、事業所独自の消防・避難訓練を実施している。また、消防署の協力を得て、消火器や通報訓練も行っている。火災通報専用電話を導入し、災害の発生には全職員の携帯TELに連絡が入るシステムとなっている。また備蓄品を整備し、事業所内に準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員業務理念を掲示し、利用者一人ひとりの尊厳を維持し、言葉使いや態度に注意し職員同士でも気が付いた時は声を掛け合いながら支援している。	職員は、利用者を年長者として尊重し、プライバシーを損なうことのないよう支援している。特に排泄や入浴の場面ではさりげない声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身で自己決定できるよう支援し、意思表示の出来ない場合でも、利用者の立場に立って考え行動するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調、動きに合わせ、要望に応えられるよう、安全で快適な生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本衣類等の選択は利用者に行っていた着用品をもらっている。また、馴染の理美容院を希望される場合は送迎を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時などは、利用者の希望を聞きメニューを決め、準備から全員で行い調理をしています。	母体法人で調理したものを事業所に運び込み、盛り付けを行っている。ご飯や朝食の汁物は事業所で提供している。ひな祭りや節分、クリスマス等の行事の際には、利用者と職員で食事やおやつ作りを行っている。利用者の状況に応じて、食事のメニューを書いたり、配膳をしたりするなどの役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル、服薬、入浴、食事量、水分量、排泄が記録できるチェック表を使い、その日の状態がすぐわかるようにしている。医療連携体制加算により協力病院から週1回看護師が体調チェックに来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には口腔ケアを行っています。利用者の状態に応じ介助の必要な人には支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を基にそれぞれの利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、可能な限りトイレで行うように支援している。	事業所では、日中はトイレ誘導を行い、気持ちよく排泄することができるよう努めている。ポータブルトイレやパンツ、パット等も本人の状況に合わせて使用している。また、本人が行きたいときにトイレに行くことができるよう見守っている。利用者の排泄のサインを見逃すことのないよう留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を基に排便状態を把握し、水分及び食事摂取量に注意して、運動や腹部マッサージなどをおこなっている。便秘が続くようなら主治医に相談するなどして支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに応じた対応で満足度を味わって貰えるような支援している。	事業所では、毎日、入浴することができるよう環境を整備している。入浴を拒む方にも、時間やタイミングを見計らって対応し、少なくとも週3回は入浴できるようにしている。また、入浴剤等を活用し、一人ひとりがゆっくりと寛ぐことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具を整え、利用者の生活リズムが崩れないように配慮した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り、薬の内容が確認できるようにして変更があった時には全職員に周知している。飲み忘れや誤薬が無いように朝昼夕をマーカーで色分けして配薬表を使用している。服薬確認は名前、日付、食事、口腔内確認を声に出し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた役割を行ってもらい達成感を味わってもらう事により、張り合いのある毎日を過ごしてもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出の機会が持てるようにしている。季節の合わせた外出、散歩、買い物などの支援を行っている。	事業所では、日常的に玄関前や近隣のコンビニへ出かけ、気分転換を図っている。特別な外出として、公園や季節のお花見、紅葉ドライブ、外食などへ出かけることもある。阿波踊り見学やイベントに参加することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心されたり、かいものを楽しまれたり、利用者一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、子機を使用し自室でゆっくりと話せるように支援している。手紙のやり取りも一人ひとり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に安全と清潔を心掛け、壁面飾りは利用者と共に作成し季節感が味わえるようにして心地よく過ごせるように工夫をしている。	リビングは天井が高く開放感があり、高い窓から自然光が差し込んでくる。テーブルやソファを配置し、利用者の移動がしやすいような配慮も行っている。利用者と職員の作品を壁面に飾っている。季節感や家庭的な雰囲気気に留意した空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがお気に入りの場所で思い思いの時間を過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、馴染のあるものに囲まれた生活が出来るよう、家族にも協力をしていただき安心できる場所になるように支援している。	事業所で、利用者の使い慣れた椅子やテーブル、筆筒等の家具を持ち込んでもらっている。利用者によっては、家族の写真や民芸品、お仏壇を持ち込んでいる方もいる。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう、一人ひとりの状態に合わせて、ベット高、滑り止めマット、家具の配置などを配慮し支援している。		